

# 清掃工場から先のごみ処理の流れ

ごみ資源物の流れとして、簡単な図を書いてみました。一言で言うと、清掃工場へ搬入するごみの量を少しでも減らしたために、様々な方法でリサイクルを進めています。莫大なお金を掛けて！なぜ清掃工場へ持ち込む量を減らさなければならぬのでしょうか？

日本を始め、多くの国ではごみを焼却処理していますが、焼却したからといって全て消え去ってしまうわけではありません。「灰」が必ず残ります。この灰を埋立処分しているのが、**日の出町にある「ニッ塚廃棄物広域処分場」**です。**狛江市を含む多摩地域25市1町、約400万人が出したごみの最終処分場として唯一存在する場所**です。「そこが一杯になったら別の場所に作らばいいじゃないか。」と思う方は多いと思います。しかし、一杯になったからといって、別の場所に作ることは不可能です。

このため、灰を埋め立てることなくセメントを作る材料として活用するために、「**エコセメント化施設**」を最終処分場内に建設し、埋立量を大幅に削減することができました。しかし、埋立量を「ゼロ」にすることはできないのです。

## ごみ減量＝最終処分場の延命です！

このような厳しい状況を打開するために、賛否両論はありますが、ごみ減量の有効手段とされているごみ袋の有料化を導入しました。「今までタダだったのに何で金を取るのか」・・・タダだったことは過去一度もあり

ません。あらかじめ収めていただいた税金で100%負担しているのですから。このごみ問題において、最も大きな問題のひとつは、ごみ処理に係る費用を100%間接負担で処理しているために、ごみを出す一人ひとりに、現在の切迫した状況を理解してもら

いにくいこととされています。このため、ごみ袋を有料化して、ごみ処理費用の一部を直接負担とすること、ごみを多く出したときの負担感を実感してもら

おうという考え方です。「そんな乱暴なやり方をする前に他に方法があるのでは？」との意見もありますが、事態は深刻であり急を要するために多くの自治体で実施しています。



# ごみ問題で重要なのはリサイクル推進？

このごみ袋有料化と肩を並べて推進されているのが「リサイクル」です。皆さんは「**3つのR**」という言葉をご存知ですか？上記の3つですが、**この言葉には間違っではない明確な順番**があります。

- ① **リデュース**・・・減らす
- ② **リユース**・・・再使用
- ③ **リサイクル**・・・再利用

**(リデュース) Reduce...減らす**  
**(リユース) Reuse...再使用**  
**(リサイクル) Recycle...再利用**

この順番を間違えてはいけません。今の世の中「リサイクル」することが最も大切なように考えられているかもしれませんが、リサイクルはごみを減らすひとつの手法でしかなく、**最も大切なこと**とは「**リデュース**・・・減らす」ことです。我々一人ひとりの市民が実行でき、また市民しか実行できません。市は出されたものを収集運搬して処理することはできます。しかし、ごみを減らすことだけはできません。我々一人ひとりがごみになるものを買わない、使わないことによりごみを減らすことを実行していけば、最終処分場も大幅に延命できるでしょう。

今回は、このごみの流れに沿って平成20年度決算を基に、どの位の処理費用をかけているかについて、紹介する予定です。

## ごみ袋の減免申請手続きをお願いします

該当になる方で、昨年の4月以降まだ手続きをしていない方は、3月31日(火)までに手続きしてください。4月以降に20年度分をお渡しするとはできません。

また、4月1日(水)からは、21年度分の支給が始まります。例年6月中旬頃までは、込み合いますので、申請時期をずらしていただくと、余計な時間がかからずすむかもしれません。